

10/1 から、学生さんの
貸出冊数・期間が
増えました。
たくさん本を借りて
くださいね！



図書館サポーター通信

第1号 2012.10発行

仁愛女子短期大学

附属図書館

(編集：図書館／加藤)

【貸出冊数（図書・雑誌・CD）】

5冊以内 → **10冊以内**

【貸出期間】

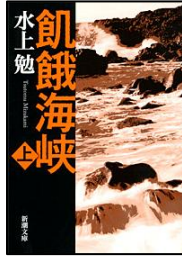
14日間 → **20日間**（※雑誌は3日間）



図書館サポーターがお薦めする「この一冊」！ 第1弾

今回の通信では、図書館サポーターの学生さん（+顧問の前田敬子先生）が皆さんにお薦めする図書を紹介します！

図書館サポーター顧問
前田 敬子先生



(上) 200015474

(下) 200015475

913.6-MI-上(下)

トーク番組で、歌手の石川さゆりさんが、歌とお芝居を組み合わせた「歌語り」を話題にしていた。その題目は『飢餓海峡』だという。若狭出身の作家、水上勉の作品である。早速、本を探してみると上下巻に分かれ、かなりの分量である。しかし、読み始めると、次第に解けていく謎に引かれて、最終章まで一気に進んだ。舞台は青森、東京、東舞鶴、北海道と広く、解き明かされていく過去も深い。これまでに私が読んだ水上勉氏の作品の中でも、最も壮大なスケールをもつ作品だと感じた。

原作を読み映画を見比べることは、私の趣味の一つである。『飢餓海峡』の映画は、昔の白黒映画だが、どの役者さんも、まさに「スター」そのもの。どの演技もどの画面構成も見応えがある。

『飢餓海峡』の映画は、ほぼ原作に忠実である。強いて差を挙げるならば、原作には、人と人の出会いの不思議さが描かれ、複雑な事件の謎を解く面白さがある。特に下巻は丸ごと、事件の謎解きの過程に費やされている。それに対して、映画は、人の心を狂わすお金の魔力が核であり、それ故に、女性の純粋な恋心が一層はかなく感じられる。

石川さゆりさんの歌う「飢餓海峡」の歌詞（作詞 吉岡治）では、相手に届くことのない報われない恋心が核である。この歌詞にある「爪」は、原作には描かれず、映画に

『飢餓海峡 (上・下巻)』 (水上勉, 新潮社(新潮文庫刊), 1990)

よって描かれたものであった。三国連太郎演じる「犬養」が残した足の爪を、「八重」は大事に保管して再会を心待ちにする。犬養を恋しく思う気持ちこそが八重の毎日を支えていた。

現実の相手が必ずしも、こちらの愛情に報いるとは限らないのに、人は、どうして自分以外の人を愛してしまうのか。思うに、人を好きになる気持ちは「希望」のようなもので、希望無しには人は生きていけないのかもしれない。

森川 奈津子さん (幼教 1 回生)

『わくわくほっこり和菓子 図鑑』(君野倫子, 二見 書房, 2012)



000113808 596.651-KI

知っていますか？ 餡にも種類があることを。

知っていますか？ 生菓子にも季節があるということ。甘くて小さくて可愛いお菓子たち。

女の子で嫌いな人は少ないはず。そんな女の子の「好き」がいっぱい詰まったこの一冊。

本から甘い香りがしそうです。ぜひ読んでみてください。

竹内 智美さん (幼教 1 回生)

『日本語を書く作法・読む作法』 (阿刀田高, 時事通信出版局, 2008)



000113837

914.6-A

あなたは、文章を書くとき、横書きですか、縦書きですか？横書きと答える人が多いと思います。しかし、日本の文学は、そもそも縦で書かれていました。なので、縦書きには日本語ならではのリズムがあります。例えば、「…だろう」と書くとき、縦書きは「たろう」と一気に書いてから、最後に「た」の濁点を打ちます。これが縦書きのリズムです。このように、日本語について新しい発見があります。ぜひ読んでみてください。

